田辺工業が初戦突破

高校ラグビー県大会　星林に28―0

第99回全国高校ラグビー県大会は27日、上富田町朝来の上富田スポーツセンターで1回戦2試合があり、第2試合で田辺工業が星林に28―0で快勝した。この大会で田辺工業が勝ったのは2009年以来、10年ぶり。第1試合は新宮が和歌山北に41―14で勝った。

田辺工業は前半21分、ゴール前の密集からBK宮本（1年）が持ち出して中央に先制のトライ。25分と29分にはBK尾崎（1年）が立て続けにトライを決めた。後半24分にはFW林（2年）が抜け出して中央へトライ。計4トライにゴールキックも全て決めてリードを広げた。

田辺工業は、唯一の3年生で主将のフルバック玉瀬がタックルで相手の得点機を何度も阻止し、無失点に抑えた。

三谷泰生監督は「前半のしんどい時間もディフェンスが集中力を切らさず頑張った」と評価した。

新宮―和歌山北は、新宮が前半からトライを重ねた。後半もボールを動かしてよく走り、和歌山北を引き離した。

準々決勝の4試合は11月4日、上富田スポーツセンターである。組み合わせは次の通り。

【4日】

第1試合（午前10時半）＝近大和歌山―新宮

第2試合（正午）＝新翔―那賀

第3試合（午後1時半）＝熊野―田辺

第4試合（午後3時）＝田辺工業―和歌山工業

田辺工業―星林　田辺工業は前半25分、ゴール前で抜け出した尾崎（中央）がトライを決めてリードを広げる　＝27日、上富田スポーツセンターで

ノーサイド

田辺工業

頼れる「無口なキャプテン」

「英太郎君、ナイスタックル」。星林との試合で勝利を挙げた後、田辺工業の唯一の3年生で主将の玉瀬英太郎（18）が1、2年生のメンバーからたたえられた。

試合ではフルバックとしてプレーでチームを引っ張った。田辺工業、星林ともに無得点の前半、ボールを持って抜け出した星林の選手に玉瀬が会心のタックルを決め、失点を防いだ。その後、田辺工業は立て続けにトライを奪った。玉瀬はゴールキックの機会を全て決め、効果的なタックルで相手の攻撃を何度も阻んだ。

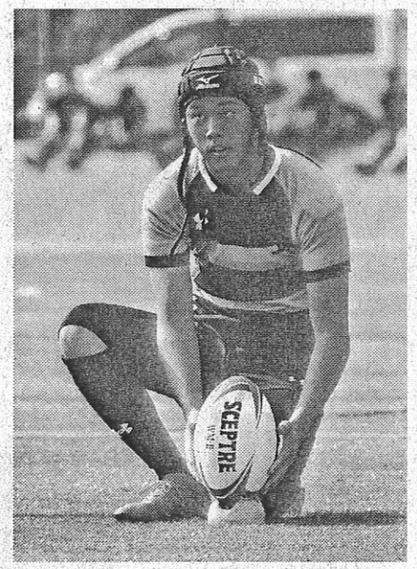
玉瀬は「今までの中で最高の試合。ラグビーをやってきてよかった。よく声を出して前へ前へと、自分たちのプレーができた」と喜びをかみしめた。監督の三谷泰生（35）も「さすがキャプテン。ビッグタックルで相手の流れを止めた」とたたえた。

玉瀬は小学5、6年生の時に地元の「梅干しジュニアクラブ」でラグビーを経験。中学校は野球部だったが高校で再びラグビーを始めた。

母の友美（48）いわく「無口なキャプテン」。性格はおっとりマイペース。小学生の時は怖がっていいタックルができなかったという。「高校でも頼りないキャプテンかと思ったがよく頑張った。かわいがってくれた先生や先輩、明るい1、2年生のおかげ」と、成長に目を細めた。

玉瀬が高校1年生の時は部員が少なく、秋の県大会では他のクラブの部員を借りて出場。その年の冬には部員が4人にまで減った。昨秋の県大会には15人ちょうどで出場。3年生になって公式戦に出場できるか不安だったが、新入生にビラを配るなどして勧誘し、多くの1年生が入部した。

「夏合宿で1、2年生がめちゃくちゃ成長し、今日の試合でその成果が出た」。玉瀬は目を潤ませ、後輩たちに感謝した。（敬称略）



ゴールキックを決める田辺工業主将の玉瀬英太郎（27日、上富田スポーツセンターで）